



道路ニュース

THE ROAD NEWS No. 639

令和5年2月号

発行所 全国道路利用者会議
〒100-0013
東京都千代田区霞ヶ関3-3-1
尚友会館6階
電話 03-3501-5611(代)
発行人 小林 勉
定価 20円 (会員の購読料は会費を含む)

8月10日は「道の日」

令和5年度 道路関係予算概要

事業費 5兆2,752億円

国費 2兆1,183億円

道路関係予算総括表

(単位: 百万円)

区分	令和5年度 (A)		前年度 (B)		倍率 (A)/(B)		備考
	事業費	国費	事業費	国費	事業費	国費	
直轄事業	1,595,298	1,595,298	1,594,329	1,594,329	1.00	1.00	1. 直轄事業の国費には、地方公共団体の直轄事業負担金(2,937億円)を含む。
改築その他	1,052,015	1,052,015	1,064,419	1,064,419	0.99	0.99	2. 合計には、社会資本整備総合交付金からの移行分が含まれており、社会資本整備総合交付金からの移行分を含まない場合は国費21,128億円[対前年度比1.00]である。
維持修繕	437,328	437,328	422,575	422,575	1.03	1.03	3. 有料道路事業等の事業費には、各高速道路株式会社の建設利息を含む。
諸費等	105,955	105,955	107,335	107,335	0.99	0.99	4. 有料道路事業等の計数には、高速道路自動車駐車場整備事業費補助、高速道路連結部整備事業費補助、特定連絡道路工事資金貸付金、連続立体交差事業資金貸付金、電線敷設工事資金貸付金、自動運行補助施設設置工事資金貸付金を含む。
補助事業	884,887	511,319	878,295	504,924	1.01	1.01	5. 本表のほか、令和5年度予算において防災・安全交付金(国費8,313億円[対前年度比1.02])、社会資本整備総合交付金(国費5,492億円[対前年度比0.94])があり、地方の要望に応じて道路整備に充てることができる。
高規格道路、IC等アクセス道路その他	376,432	208,584	381,561	210,627	0.99	0.99	6. 本表のほか、東日本大震災からの復旧・復興対策事業として令和5年度予算において社会資本整備総合交付金(国費116億円[対前年度比1.12])があり、地方の要望に応じて道路整備に充てることができる。
道路メンテナンス事業	390,628	224,540	388,604	223,414	1.01	1.01	7. 本表のほか、行政部費(国費8億円)およびデジタル庁一括計上分(国費10億円)等がある。
交通安全対策事業(通学路緊急対策)	99,140	55,482	90,334	50,000	1.10	1.11	(参考) 前年度(令和4年度)における社会資本整備総合交付金(道路関係)の交付決定状況(令和4年12月末時点) ・防災・安全交付金 国費2,771億円 ・社会資本整備総合交付金 国費1,505億円
除雪	18,687	12,458	17,796	11,864	1.05	1.05	
補助率差額	-	10,255	-	9,019	-	1.14	
有料道路事業等	2,795,022	11,645	2,315,504	11,687	1.21	1.00	
合計	5,275,207	2,118,262	4,788,128	2,110,940	1.10	1.00	

国土交通省は、1月23日に令和5年度国土交通予算決定概要を発表した。道路関係予算概要は、事業費5兆2,752億円(対前年度比1.10)、国費2兆1,183億円(対前年度比1.00)となっている。

「はじめに」道路の機能と目指すべき社会像
① 道路の機能
② 目指すべき社会像
③ 地域・まちを創る

道路は、人や地域を相互につなぎ、人・モノ・情報の移動を支える。通勤、通学、買い物等の日常生活の移動や、レジャーや観光など広域的な人の移動を支える。また、食料品や日用品などの生活物資、農林水産品や工業製品などのモノの輸送を支える。さらに、道路に敷設された光ファイバー等は多量の情報を運ぶ。災害時には、救命、救護物資の運搬を支える、人々の命と暮らしを守る生命線としての役割も担っている。コロナ禍では、人の移動は激減したが、国民のステイホームを支えたのはモノと情報の流れであった。これら人・モノ・情報の移動により、地域・まちが繋がって、国民生活や経済活動が営まれる。平時・災害時を問わず安定した人・モノ・情報の移動を確保するために、近年の技術革新も踏まえ、道路の更なる機能向上が求められている。

道路は、地域・まちの骨格をつくり、環境・景観を形成し、日々の暮らしや経済活動を支える環境を創り出す。地域・まちの中の人・モノの流れを整流化し、人々が滞在し交流する賑わいの場や電気・ガス・水道・光ファイバー等のライフラインの収容場所としても活用される。また、災害時には、避難場所等としての役割も担う。かつて道路は人々のコミュニケーションを育む場であったが、モータリゼーションの進展によりその機能が失われつつある。空間の活用ニーズも変化してきており、より一層魅力的な地域・まちを創造するため、地域の創意工夫で道路を柔軟に活用することが求められている。

「被災する道路」から「救済する強靱道路」として強靱で信頼性の高い国土幹線道路ネットワークを構築するとともに、急速に進展するインフラ老朽化を克服し、良好なインフラを次世代につなぐことで、誰もが安全に安心して暮らせる社会を目指す。

「(2) 人・モノ・情報が行き交うことで活力を生み出す社会」
社会の持続可能性を高めるためには、生産性の向上による経済成長が必要不可欠である。経済成長を支える人・モノ・情報の移動を安全で円滑に行うことが出来るよう、高規格道路をはじめとする国土幹線道路ネットワークや拠点を構築するとともに、新たな技術も活用しつつ道路の機能を進化させ、人・モノ・情報が国土全体を行き交う活力あふれる社会を目指す。

「(3) 持続可能で賑わいのある地域・まちを創り出す社会」
今後、都市・中山間地域問わず人口が減少していく中で、高齢者、子供、障がい者を含む全ての人の生活・生業が持続可能で、かつ人々が誇りを持って暮らせる地域・まちを創り出す必要がある。環状道路等の幹線道路ネットワークの進展により生まれる都市内の空間のゆとりを有効に活用することで、地域がそれぞれの工夫により、安全・安心で良好な環境や景観等を備えた、持続可能で賑わいのある地域・まちを創り出す社会を目指す。

令和4年度「道路ふれあい月間」推進標語

「朝ひかた 夕ぞよむらさき」

「言えたら朝」

令和5年度道路関係予算概要説明会

“道路総合システムサービス”企業

NICHIREKI

二チレキ株式会社

東京都千代田区九段北4-3-29 TEL 03(3265)1511代表



島市長が挨拶を行った。続いて、国土交通省道路局の鎌原宜文総務課長、杵掛敏夫企画課長、高松諭環境安全・防災課長より「令和5年度道路関係予算概要」についての説明をいただいた。説明終了後には質疑応答や意見交換が行われた。